

e-33) カッコウメダカカミキリ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州に分布する⁴⁷⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

成虫は 5 月～6 月に現れ、イヌザンショウの花や、クリ、クヌギ、イヌビワの枯れ木及びフジの枯れづるに集まり、幼虫はこれらの枯れ木の中で生活することが知られている⁴⁹⁾。成虫は夜、電灯にも飛んで来る習性がある⁴⁹⁾。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(29)に示す。

本種については、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 9 年度に音無周辺及び東畑瀬集落南周辺において確認された記録がある。

生態情報から、本種は、落葉広葉樹林に生息すると考えられる。

e-34) ヒメキベリトゲハムシ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する⁵³⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

食草はサクラ⁵³⁾である。

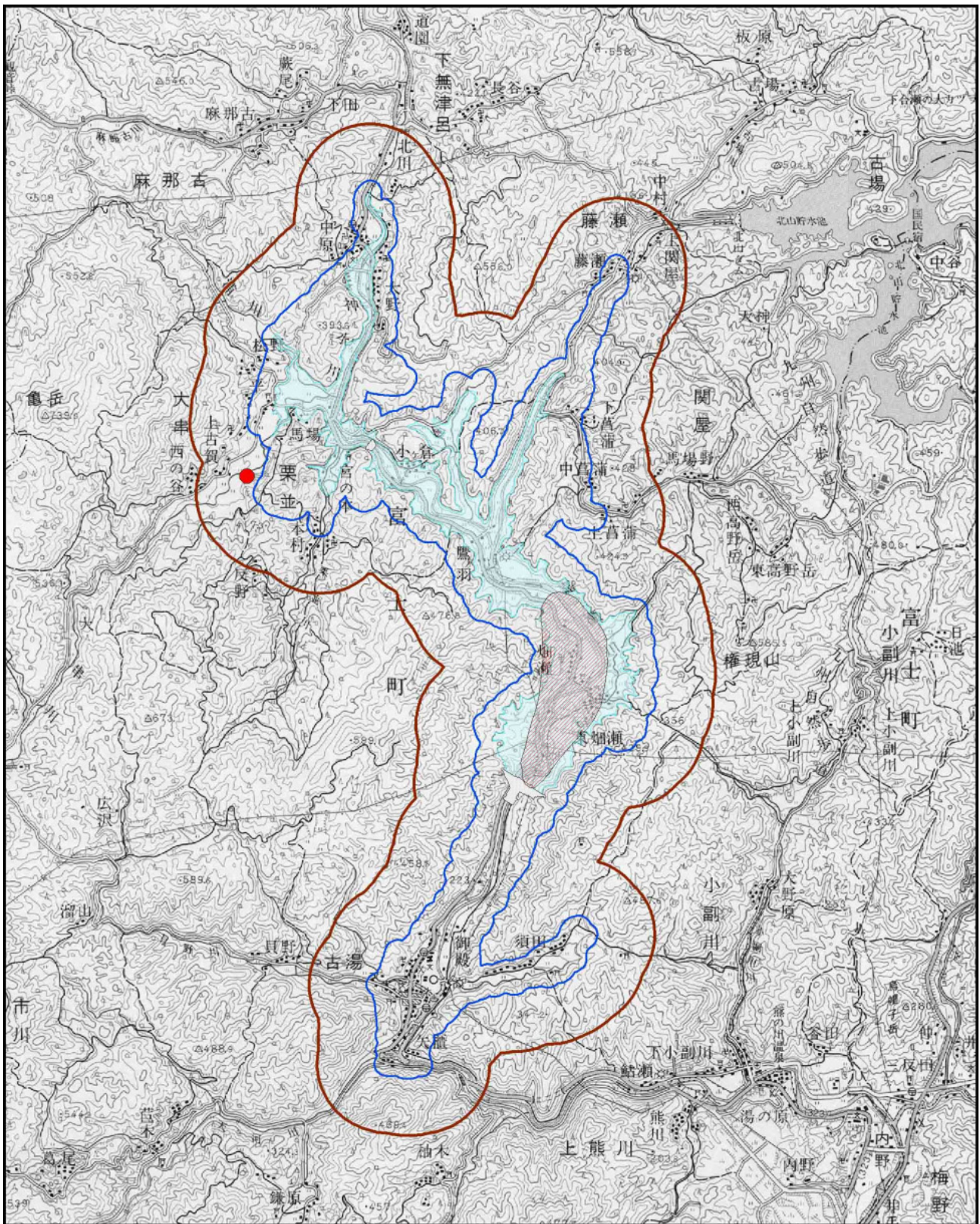
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(30)に示す。

本種は、平成 14 年度の調査において、大串川の上古賀集落周辺 1 地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 9 年度に東畑瀬集落南周辺において確認された記録がある。



確認地点の環境は、混交林縁のサクラ類葉上等であり、各地点で 1 個体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、サクラ類が生育する常緑広葉樹林及び落葉広葉樹林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-   } : 確認地点



1:50,000

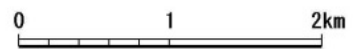


図4.1.5-7(30)
ヒメキベリトゲハムシ確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。

e-35) カミヤササコクゾウムシ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、九州に分布する⁵³⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

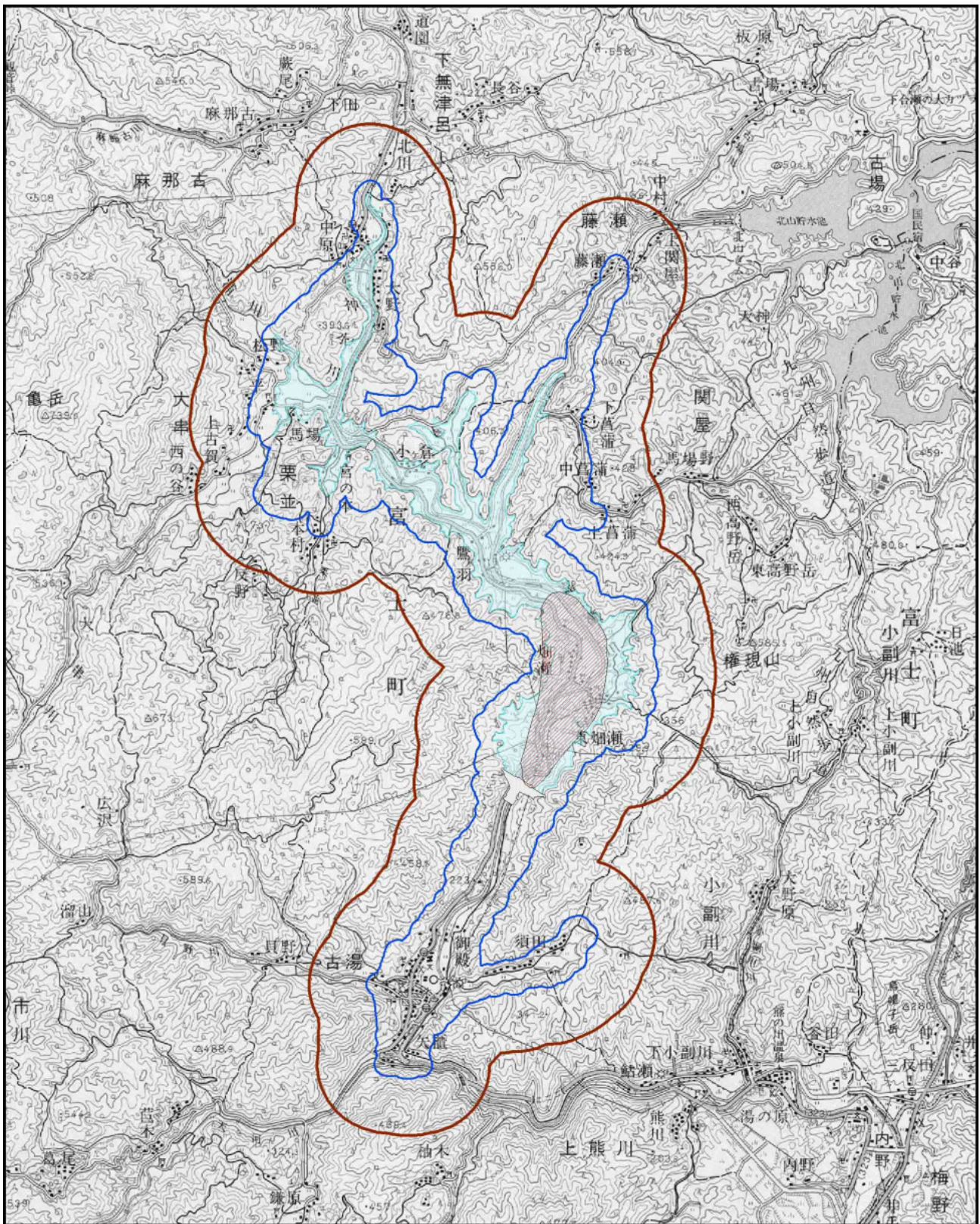
本種は、枯れ竹に集まる⁵³⁾とされる。

iii) 調査結果






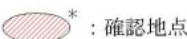
調査による確認地点を図 4.1.5-7(31)に示す。

本種については、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 9 年度に東畑瀬集落南周辺において確認された記録がある。

生態情報から、本種は、主に竹林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
- * : 確認地点



1:50,000

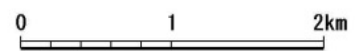


図4.1.5-7(31)
カミヤササコクゾウムシ確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。

f) 底生動物の重要な種

底生動物の重要な種の確認状況を表 4.1.5-15 に示す。

表 4.1.5-15 底生動物の重要な種の確認状況

目名	科名	種名	確認方法	確認年度
モノアラガイ	モノアラガイ	モノアラガイ	採集、文献による記録	平成 4 年度、8 年度、10 年度、14 年度、15 年度
トンボ	ムカシトンボ	ムカシトンボ(幼虫)	採集	平成 6 年度、8 年度、14 年度
	サナエトンボ	ホンサナエ(幼虫)	採集	平成 8 年度
		アオサナエ(幼虫)	採集、文献による記録	平成 8 年度、12 年度～14 年度
	エソトンボ	キイロヤマトンボ(幼虫)	採集	平成 13 年度
カメムシ	コオイムシ	コオイムシ	採集	平成 13 年度
	ナベブタムシ	トゲナベブタムシ	文献による記録	-
コウチュウ	ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ	採集	平成 14 年度、15 年度
	ホタル	ゲンジボタル(幼虫)	採集、文献による記録	平成 4 年度、8 年度、9 年度、12 年度～14 年度

注)1. - :該当する項目がないことを示す。

2.アオサナエ及びゲンジボタルの確認年度には、「e 昆虫類の重要な種」に示した成虫の確認年度を含む。

f-1) モノアラガイ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリスト見直しについて」(環境庁 平成 12 年 4 月)⁵⁾に準絶滅危惧として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道から九州に分布⁵⁴⁾する。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

小川、川の淀み、池沼、水田等の水草や礫に付着している⁵⁵⁾。水から出ることは少ない⁵⁵⁾。植食性で微小な藻類をヤスリのような歯舌で削り取って食べる⁵⁵⁾。藻類の他、動物の死骸や産み付けた卵塊を食べることもある⁵⁵⁾。6

月頃から産卵を繰り返す⁵⁵⁾。水生植物の葉や茎に長さ 10mm 程度の透き通ったゼラチン質の卵塊を産む⁵⁵⁾。その中に約 15 個～20 個の小さな黒っぽい卵が入っている⁵⁵⁾。約 2 カ月で成熟して産卵を行う⁵⁵⁾。

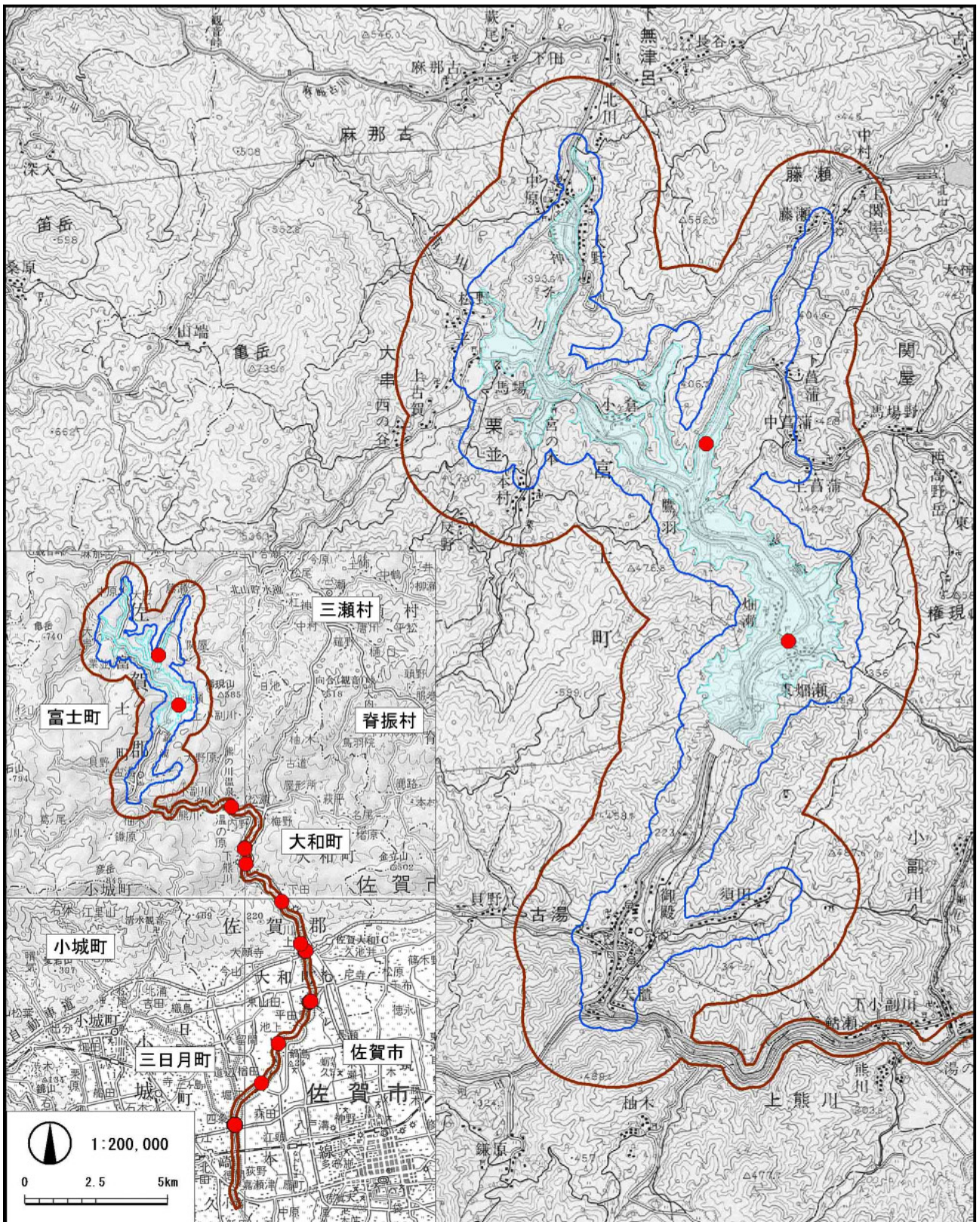
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-8(1)に示す。







本種は、平成 4 年度、8 年度、10 年度、14 年度及び 15 年度の調査において、嘉瀬川の菖蒲橋から鷹ノ羽橋の間 1 地点、湯の原集落周辺 1 地点、昭和橋付近 2 地点、渡月橋上流 1 地点、川上頭首工上流 1 地点及び下流 8 地点、石井樋下流 7 地点、池森橋付近 2 地点及び上流 1 地点、嘉瀬大橋付近 9 地点、合計 33 地点で生息が確認された。また、文献⁵⁶⁾⁵⁷⁾において嘉瀬川の畑瀬橋付近 1 地点、川上川第一発電所付近 1 地点、嘉瀬大橋付近 1 地点、合計 3 地点で確認された記録がある。

確認地点の環境は、主に砂礫底の平瀬の浅い所または河岸であり、主にヨシ帯や草の中で確認された。各地点の確認個体数は 1 個体～10 数個体である。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に水田及び流れが緩やかな嘉瀬川の中、下流部に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-8(1)
モノアラガイ確認地点